

## 本時のねらい

- ・今までに学習してきた風通しや採光、動線などの要素や各自の家の良さをもとに、快適な住空間を考えることができる。
- ・家族みんなが笑顔になるために、どんな工夫ができるのか考える。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・デジタルで図面を作成することで、修正が容易になり、意欲的に学習にとりくむことができる。
- ・2Dの図面だけでは風通しや採光、動線を想像しにくい児童が、必要に応じて webcad. の 3D 機能を活用することで、学びやすくすることができる。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・Chromecast
- ・大型テレビ
- ・Google Classroom
- ・Jamboard
- ・スプレッドシート
- ・Google Keep
- ・マイホームクラウド（オンラインで住宅図面を作成、保存できるサービス）
- ・webcad.（マイホームクラウド内で活用できる、住宅図面の作成用ツール）

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあてを設定する。 「設計士さんから聞きとったことを自分の間取りに取り入れてみよう」</li> <li>○設計士の方から聞きとった「暮らしやすい家」を作るときの工夫を想起し、発表する。【写真1】</li> <li>○本時のルーブリックを提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前におこなった聞きとり学習の際にメモしたことを、紙または Google Keep で見ながら発表する。</li> <li>・子どもがルーブリックをいつでも確認できるよう、Google Classroom にあらかじめ指導者が投稿しておく。</li> </ul>
展開 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住みやすい間取りになっているかを常に確認しながら、webcad. で間取り製作をする。【写真2】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前におこなった聞きとり学習の際のメモを、紙または Google Keep で見ながら間取り製作にとりくむ。</li> <li>・必要に応じて webcad. の 3D 機能を活用し、風通しや採光、動線などがどうなっているか確認する。</li> <li>・マウスが必要かどうかを自分で判断し、必要であれば学校が用意したものを使う。</li> </ul>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ルーブリックを踏まえ、ふりかえりをスプレッドシートに入力する。早く入力し終えた子どもは、友だちが入力したふりかえりを見る。【写真3】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同編集ができる状態で配信したスプレッドシートをふりかえりに活用することで、逐次書き込んだ内容を共有することができる。</li> </ul>

## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真1 Google Keep でメモを見ながら発表している場面

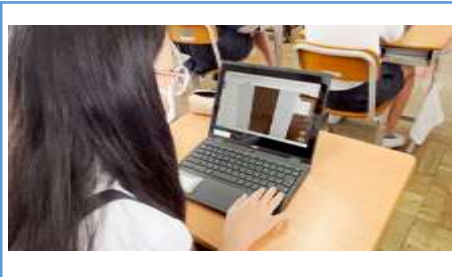


写真2 webcad. で間取り製作をしている場面



写真3 ふりかえりをスプレッドシートに入力している場面

## 児童生徒の反応や変容

事前学習として、泉佐野市役所建築課で働く設計士・建築士の方々からの聞きとり学習をした。本時でとくんだ間取り製作のための知識や考え方を、丁寧に教えてくださった。子どもたちは紙や Google Keep を使い、自分に合う方法を選択して積極的にメモをとっていた。学級では将来建築士になりたいという夢をもっている子どもがおり、キャリア教育としても有効だったと考えている。また本時の後には、再度設計士・建築士の方々をお招きし、完成した間取りを改良するためのアドバイスをいただいた。一連の学習で家族みんなが笑顔になれる間取りに向き合ったことで、普段何気なく過ごしている家のことや家族のこと、家族の幸せについて考えを深めていた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・間取りの図面を紙に描くとなると、子どもたちにとってかなり大変な作業になることが予想される。しかし ICT を使うことで、多くの子どもたちが積極的にとりくむことができた。
- ・これまで多様なコンテンツを使用し、操作スキルを高めてきた。そのため、子どもたちは新しいコンテンツを活用することにも前向きにとりくむことができた。webcad. の活用を決めた背景には、今後未知のコンテンツと出会ったときに臆することなく使うための経験を積んでほしいという思いもある。